



IX ソフトウェア機能

改訂日:2017年5月11日

この章には、IX5000 ソフトウェア機能の概要と設定情報が含まれています。また、概要または詳細な設定手順が必要な機能に関する情報も含まれています。特定の IX ソフトウェア リリースで導入されるすべての機能の説明については、『[Release Notes for Cisco TelePresence Release IX 8 Software](#)』を参照してください。

目次

- [IX システムのアドホック会議\(4-1 ページ\)](#)
- [IX システムにおける TMS 電話帳のサポート\(4-2 ページ\)](#)
- [設定可能なプレゼンテーション ストリームの数\(4-2 ページ\)](#)
- [TMMBR のサポート\(4-2 ページ\)](#)
- [H.265 のサポート\(4-3 ページ\)](#)

IX システムのアドホック会議

IX システムはアドホック会議をサポートしています。アドホック会議では、ビデオおよび音声による参加者を追加することによって既存のポイントツーポイント コールを会議へとエスカレーションすることができます。アドホック会議を開く場合、[TelePresence Management Suite](#) などのミーティング スケジューラを使用して事前にミーティングのスケジュールを設定する必要はありません。

アドホック会議のサポートは、[Unified CM](#) を使用して設定します。設定作業およびサポートに関する制限事項の詳細については、『[Configuring Cisco Unified Communications Manager for the IX System](#)』の「Ad Hoc Conferencing」を参照してください。

IX システムにおける TMS 電話帳のサポート

IX5000 は、TelePresence Management Suite (TMS) のディレクトリを Unified CM のディレクトリの代わりに使用する機能をサポートしています。IX ユーザは、タッチ デバイスで [連絡先 (Contact)] アイコンをタップしてディレクトリにアクセスできます。

Unified CM で IX を設定する場合は、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域の [代替ディレクトリのタイプ (Alternate Directory Type)] フィールドと [代替ディレクトリ サーバ (Alternate Directory Server)] フィールドを [TMS] に設定します。詳細については、『[Configuring Cisco Unified Communications Manager for the IX System](#)』の「[Product Specific Configuration Layout Area](#)」を参照してください。

この機能を使用するには、電話帳を TMS 15.3 以降で設定する必要があります。IX システムの TMS を設定する場合は、TMS のセキュリティ モードを [中 (Medium)] に設定します。

詳細については、TMS 15.3 以降の『[Cisco TelePresence Management Suite Administrator Guide](#)』の「[Creating and Managing Phone Books](#)」を参照してください。

設定可能なプレゼンテーション ストリームの数

IX5000 は、ある IX システムから別の IX システムへのポイントツーポイント コールで 2 つのプレゼンテーション ストリームをサポートします。2 つのストリームは、単方向 (プレゼンテーション側の参加者から受信側の参加者へ) にすることも、両方向 (それぞれの側の参加者からもう一方の側の参加者への同時プレゼンテーション) にすることもできます。

Unified CM で IX を設定する場合は、片側または両側についてプレゼンテーション ストリームの最大数を設定することができます。この機能を使用して、片側のプレゼンテーション ストリーム数を設定すると、IX システムに必要な帯域幅を減らすことができます。

この設定は、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域の [プレゼンテーション ストリーム数 (Presentation Stream Count)] フィールドで指定します。詳細については、『[Configuring Cisco Unified Communications Manager for the IX System](#)』の「[Product Specific Configuration Layout Area](#)」を参照してください。



(注)

この機能が適用されるのは、ある IX システムから別の IX システムへのポイントツーポイント コールのみです。マルチポイント コールおよび IX システム以外のシステムへのコールの場合、サポートされるプレゼンテーション ストリームは 1 つのみです。

TMMBR のサポート

IX システムは、フロー制御を目的として、TMMBR (Temporary Maximum Media Bitrate Request) によるダイナミック レート適合をサポートしています。この実装は RFC5104 に基づくものですが、この RFC 勧告のサブセットのみが実装されます。TMMBR は、ネットワークで障害が発生した場合にリアルタイム ビデオの維持に役立つメディア復元力メカニズムです。これは、ユーザエクスペリエンス向上のためにネットワークの輻輳を調整するポイントツーポイント シナリオおよびマルチポイント シナリオ用の要求応答メカニズムです。

TMMBR メカニズムは 10% 以上のパケット損失が検出された場合にトリガーされます。パケット損失が検出されると、ローカルエンドポイントはビデオ ビット レートを低減するために TMMBR 要求をリモートエンドポイントに送信します。次に、ユーザエクスペリエンスの維持に使用される帯域幅が低減されます。リモートエンドポイントは、TMMBN メッセージで応答し、送信しているビデオのビット レートを低減させます。パケット損失が 10% 未満の場合、TMMBR メカニズムはトリガーされません。

TMMBR 要求は、パケット損失が発生しているエンドポイントからビデオを送信しているエンドポイントまたはノードに送信されます。TMMBR 要求は、次のいずれかが発生するまで、受信中のビデオのビデオ ビット レートの低減に役立ちます。

- 次回のメディア ネゴシエーション
- 次回の TMMBR 要求
- コールのドロップ

TMMBR による低速化は、次のコール シナリオのメイン メディア帯域幅とセカンダリ メディア帯域幅の両方で発生します。

- IX システムから IX システム
- IX システムからネイティブ相互運用性エンドポイント
- IX システムから TMMBR をサポートしている TelePresence Server などのマルチポイント システム

ユーザ設定は必要ありません。

H.265 のサポート

IX ソフトウェアを実行しているシステムは、H.264 に加え、H.265 ビデオ圧縮標準規格もサポートしています。H.265 では、H.264 と比較して、最適なネットワーク条件下で平均 40% のビット レートが削減されます。

H.265 は、IX5000 および IX5200 と次のシステム間のポイントツーポイント コールでサポートされています。

- 別の Cisco TelePresence IX5000 または IX5200
- Cisco TelePresence MX700
- Cisco TelePresence MX800
- Cisco TelePresence SX80



(注)

H.265 を使用するには、IX システムがリリース 10.5 以降のソフトウェアを実行している Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) に登録されている必要があります。詳細については、『[Configuring Cisco Unified Communications Manager for the IX System](#)』の「[Product Specific Configuration Layout Area](#)」を参照してください。

